

無料版です。

ダウンロードして頂きありがとうございます。  
ホームページ上にも掲載してありますが、  
プリントアウトや検索などがし易いように  
PDFにもまとめてみました。

※ご利用前に「免責事項と著作権」  
34ページをご一読頂けたらと思います。

あいうえお順に掲載しています。

基本的な語句の説明が殆どです。  
看護学生さん、新人看護師さん、  
ブランクのある看護師さん、  
看護に関心のある方  
などにお役にたてれば幸いです。

※

### PDFの検索機能の活用方法

その1 上部にある検索ボックスを利用する場合。

PDFの上部にある検索ボックスにキーワードを入れます。  
Enterキーをクリックするとページが移動します。  
同じキーワードで他のページをみたい時は、  
検索ボックスの右に表示されたページの図柄をクリックします。

その2 Readerの検索パネルを利用する場合。

PDF上部の検索ボックスの右側にある▼の部分をクリックします。  
小さな別ウィンドウが開きます。そのウィンドウ内の  
「Readerの検索パネルを開く」をクリックします。左側に検索パネルが開きます。

※プリントアウトされた際は、29ページ～32ページの索引をご利用下さい。

## 目次

まえがき	1
あ行	3
か行	6
さ行	11
た行	16
な行	20
は行	21
ま行	24
や行	25
ら行	27
わ行	28
索引	29
参考文献	33
免責事項/著作権/プロフィール	34
あとがき	35

## あ行

### IVH (アイブイエイチ)

Intravenous Hyperalimentation の略

高カロリー輸液 中心静脈栄養 完全静脈栄養 などとも呼ばれています。

中心静脈にカテーテルを挿入 ( 留置 ) して栄養などを補給する方法です。

➡ 中心静脈 p17

### アナフィラキシー

急性で重いアレルギー反応。

蕁麻疹などの皮膚の症状や、呼吸困難などの呼吸器症状、

血圧低下、意識障害など重い症状を呈することが多い。

中にはショック状態に陥り死亡することもある ( アナフィラキシーショック )

### アルコール消毒

皮膚や医療器具などをアルコール ( 消毒用アルコール ) で消毒すること。

➡ 消毒用アルコール p12

### アレルギー反応

人体を防御するための免疫反応が過剰に起こること。

症状は蕁麻疹や痒みなどの皮膚症状、咳などの呼吸器症状、

下痢、嘔吐などの消化器症状

重い場合は呼吸困難、血圧低下、意識障害などがみられることもあります。

➡ アナフィラキシー p3

## アレルギー反応テスト

### アレルギーテスト

アレルギーの原因を知る為に、実施されるテスト。

血液検査、パッチテスト、スクラッチテスト、皮内テスト などがあります。

## アンプル

薬剤の入っている小さいガラスの容器。

先が細長く、カットし易いような構造になっています。

## アンプルカッター

アンプルをカットする時に使用します。

アンプルの頸部のくびれている部分に傷をいれる道具。

小さいヤスリ。

## アンプルカット

アンプルの頸部のくびれている部分に

アンプルカッターで傷を入れて、先端を折ること。

又は、あらかじめ傷のあるアンプルをカットすること。

➡ ワンポイントカットアンプル [p28](#)

## インラインフィルター

末梢の点滴の時に使用されるフィルター。

通常のフィルターの孔径は 0.22 $\mu$ m

薬剤の種類によっては、上記より小さいフィルターを使用する。

静脈炎の予防に有効とされています。

## エア－針（エア－しん）

### 空気針

輸液瓶など硬い素材の容器で点滴をする場合、  
容器内の圧を外気圧と同じにする必要があります。  
圧が外気圧より小さいと輸液が落下しなくなります。  
エア－針を刺して空気を通すことにより、圧が一定になります。  
最近ではソフトバッグが増えてエア－針の使用が減少しています。

## エクステンションチューブ

商品名になります。  
一般名は、造影用耐圧チューブ  
輸液などの時に延長チューブとして使用されることが多い。

## か行

### 外シャント

血液透析を実施するときに施行されます。

動脈と静脈にチューブを挿入して、

体外でそれぞれのチューブを接続します。

外シャントは感染の危険が高く、詰まりやすいなどの欠点があり、

最近では内シャントの方が多く実施されています。

➡ シャント [p12](#)

➡ 内シャント [p20](#)

### カテーテル

医療用に使用されている管を、カテーテルと呼んでいます。

柔らかい素材で出来た、中が空洞になった細長い管です。

代表的なものに、心臓カテーテル、中心静脈カテーテル、

バルーンカテーテル、尿道カテーテル などが 있습니다。

➡ チューブ [p17](#)

➡ カニューレ [p6](#)

### カニューレ (カニューラ)

チューブ類の一つ

医療機関でよく耳にするのが

気管カニューレ、鼻腔カニューレなどがあります。

## カラーコード

注射針などの針や吸引カテーテルは

サイズによって針やチューブの根もとの色が違います。

太さが一目で判るように、外径のサイズを色で識別しています。

☆平成19年4月1日より国際標準化機構規格（ISO規格）に統一されました。

## 筋肉内注射（きんにくないちゅうしゃ）

筋肉内に薬液を注入すること。

皮下注射よりも吸収が早い。

皮下組織の下が「筋肉」になります。

➡ 皮下 [p21](#)

## くも膜下腔内注射（くもまくかくうないちゅうしゃ）

クモ膜と軟膜の間に薬液を注入

※脊髄は三層からなる髄膜に包まれています。

髄膜は外側から、硬膜、クモ膜、軟膜

クモ膜下腔は、クモ膜と軟膜の間にある空間で

脳脊髄液（無色透明な液体）で満たされています。

➡ 腰椎穿刺 [p25](#)

## クランプ

点滴セットなどのチューブに取り付けてあり、

輸液の滴下速度の調節や滴下を止める時に用います。

クレンメと同じ

## クレンメ

点滴セットなどのチューブに取り付けてあり、  
輸液の滴下速度の調節や滴下を止める時に用います。

正確には、ローラークレンメ  
クランプと同じ

☆点滴の調節を患者さん自身が出来ない様に  
工夫されているクレンメもあります。

## クローズドシステム

閉鎖注入システム

点滴ルートに三方活栓が無く、針での注入も出来ないルート。  
感染のリスクが低くなる、針刺し事故が減少する などの利点があります。

## ゲージ

注射針のサイズに用いられる単位 「G」で表します。  
数字が大きくなるほど、注射針の外径は細くなります。  
病院などで主に使用されている大きさは 16 G ~ 27 Gです。

## 血液ガス分析 ( けつえきガスぶんせき )

血液中に含まれている酸素や二酸化炭素の割合、pHなどを測定すること。  
略して「血ガス ( けつガス ) 」という場合が多い。  
動脈血を採取します。



### 血液透析用留置針（けつえきとうせきようりゅうちしん）

販売名 クランプキャス ハッピーキャス などがあります。

人工透析を行うための血管留置針

➡ 末梢血管用留置針 [p24](#)

### 血管迷走神経反射（けっかんめいそうしんけいはんしゃ）

自律神経の一つである副交感神経と関係が深い神経。

主に内臓や血管などに分布している。

痛みやストレス、精神的ショックなどの後に起こることがある。

血管迷走神経反射性失神（略称 VVR）

### コアリング

バイアルなどのゴム栓を注射針で刺す時に、

ゴムが削れて異物となること。

### 抗生剤（こうせいざい）

抗生物質 抗菌剤

体内に細菌などが侵入したときに使用される薬剤。

細菌などの発育を抑制する働きがあります。

### 硬膜外腔内注射（こうまくがいくうないちゅうしゃ）

脊髄を包んでいる膜を、髄膜といいます。

髄膜は三層から成り立っています。外側から、硬膜、クモ膜、軟膜

硬膜外腔は、硬膜と黄色靭帯の間の隙間。この隙間に、薬液などを注入します。

疼痛緩和の目的で注射する 경우가多く、硬膜外ブロックと呼んでいます。

## 骨髓穿刺（こつずいせんし）

マルクと呼ばれています。

主に腸骨や胸骨などに針を刺して、

血液を造る骨髓を採取します。

白血病などの血液の病気が疑われる時や、

ドナーとして骨髓を提供するときにも、実施されます。

### 採血ホルダー（さいけつホルダー）

真空密封型採血管に、直接、血液を注入する際に必要となります。

採血をする時に使用する医療器具です。

ホルダーの先に採血用の針を取り付けます。

最初から針がついているホルダーもあります。

取り付けた針を血管に刺した後、

真空密封型採血管を刺し込んで採血します。

採血管内は真空になっている為、自然に採血管内に注入されます。

➡ シリンジ採血 [p14](#)

### サーフロー留置針（サーフローリゅうちしん）\* 販売名

一般名はプラスチックカニューレ型滅菌済み穿刺針

緊急時の血管確保や長時間の点滴などを実施する際に

末梢の血管内に留置するカニューレです。

外筒がカニューレ、内筒が針

➡ 末梢血管用留置針 [p24](#)

➡ 血液透析用留置針 [p9](#)

### 三方活栓（さんぼうかつせん）

活栓（一般名）

点滴などのルートに取り付けて、側管から薬液を注入する時に必要。

➡ クローズドシステム [p8](#)

## 自己注射（じこちゅうしゃ）

本人自身が自分で又は家族が注射すること。

自己注射できる薬には、ホルモン剤（インシュリンや成長ホルモンなど）凝固因子製剤、インターフェロン、などがあります。

注射の回数が多かったり、発作などが起きた時に緊急の投与が必要な時など、通院治療が困難な患者さんに限られています。

## 持続皮下注射（じぞくひかちゅうしゃ）

静脈注射が普及する前は、皮下注射による補液が一般的だったようです。

濃度の高い輸液の場合は痛みや発赤などの合併症も多く、

静脈注射が普及し始めてからは、徐々に実施されなくなりました。

※1990年代の後半から見直されてきました。

高齢者の方や血管の細い方などで静脈からの補液が困難な方や、疼痛緩和の治療として実施している医療機関もあります。

## シャント

本来流れる血管とは違う別のルートのこと。

血液透析の際に透析する血液の量を増やす目的で、シャントが必要になります。

通常は動脈と静脈は直接交わることはありませんが、

動脈と静脈の血管を直接繋ぐことにより、血液の量を増やすことができます。

シャントとは動脈と静脈を直接繋いで、動脈血を静脈に流すことです。

シャントには、内シャントと外シャントとがあります。

- ➡ 内シャント p20
- ➡ 外シャント p6
- ➡ ブラッドアクセス p23

## 消毒用アルコール（しょうどくようアルコール）

採血や注射などの時に皮膚を消毒する時や、

器具の消毒に利用される、アルコール。

消毒用エタノールや消毒用イソプロパノールなどがあります。

## 静脈 (じょうみやく)

心臓に還る血管。

体表面に近いところを走る。

静脈を流れる血液は、**静脈血**

※肺から心臓に還る血管も静脈ですが、血液は**動脈血**

➡ 静脈血 p13

➡ 動脈 p18

## 静脈炎 (じょうみやくえん)

血管の炎症。

静脈に沿って、発赤、痛み、腫脹、熱感などの症状を伴う。

持続点滴や高濃度の薬液、刺激の強い薬液などを

注入したときに起こしやすい。

## 静脈カテーテル (じょうみやくカテーテル)

末梢の静脈や中心静脈に挿入する細長い管

カテーテルは中が空洞で柔らか素材で出来ています。

➡ 中心静脈(CV) p17

➡ 中心静脈カテーテル p17

➡ カテーテル p6

## 静脈血 (じょうみやくけつ)

二酸化炭素を多く含んだ血液

暗赤色をしています。

手背などを走っている表面に青く浮き出て見える血管は

静脈で、静脈血が流れています。

## 静脈注射（じょうみやくちゅうしゃ）

静脈内に薬液を注入します。

※血管には、静脈と動脈があります。

看護師が実施しているのは静脈内の注射になります。

静脈は体表面に近い血管で、皮膚の表面から浮き出ている青い血管です。

## 静脈注射用ポート（じょうみやくちゅうしゃようポート）

略して静注ポート

皮下に植え込むことが出来る医療用器具、リザーバーのこと。

静脈に挿入された留置カテーテルに接続されています。

➡ 皮下埋込式リザーバー [p21](#)

## シリンジ

注射器のこと。

## シリンジ採血（シリンジさいけつ）

ディスプレイの注射器を使用しての採血

➡ 採血ホルダー [p11](#)

## シリンジポンプ

注射器（シリンジ）に充填された薬液を、微量ずつ

正確かつ確実に体内に投与するときに使用されます。

➡ 輸液ポンプ [p25](#)

## 神経ブロック ( しんけいブロック )

痛みの原因となる神経やその周囲に麻酔薬を侵透させて、痛みを遮断すること。

➔ 硬膜外腔内注射 p9

## 心注 ( しんちゅう )

心腔内注射

心臓内に長い針を刺して、直接、薬液を注入すること。

以前は心停止などの蘇生に、アドレナリンなどを直接心臓に注射していましたが、

最近は静脈内に注射するのが一般的。

かえって、心タンポナーデや冠動脈などの血管を損傷する危険があるといわれています。

血管確保をしていない場合は、実施するケースもあります。

## 穿刺 ( せんし )

体内に針を刺すこと。

血管、関節腔内、腹腔内、胸腔内、腰椎などに針をさすこと。

## 造影剤 ( ぞうえいざい )

血管や脊髄、尿路 ( 腎臓、尿管、膀胱など )、胆のう、

胃十二指腸などの検査をするときに、通常のレントゲン検査でははっきりと写し出されない部分を確認する時に使用されます。

胃のバリウム検査、CT検査の時の血管造影、

尿路系の造影などがよく実施されます。

### ダイアライザー

血液をきれいにする医療器具  
血液透析器のこと。  
血液中の老廃物や水分などを除去する役割があります。

### ダブルルーメンカテーテル

一般名は、緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル  
血液透析用のカテーテルと中心静脈用のカテーテルがあります。

### チャンバー

点滴筒  
又は、正確に薬剤を投与するときに用いる、細かいメモリが付いている容器。

### 注射（ちゅうしゃ）

薬液を体内に注入すること。  
皮内注射、皮下注射、筋肉注射、静脈注射、  
動脈注射、関節内注射、硬膜外腔内注射 などがあります。

### 注射針（ちゅうしゃしん・ばり）

体内に薬液などを注入するための針  
注射や穿刺の針は、全て、中が空洞になっています。



## 中心静脈 ( ちゅうしんじょうみやく )

C V (Central Vein)

通常は上大静脈と下大静脈をさします。

血液量が多く太い血管のため、濃度の高い薬剤を投与することが出来る。

血管から薬液が漏れるリスクも低いため、

抗がん剤やカテコラミン類など、

確実かつ正確に投与しなければならない薬剤の場合も

中心静脈からの方が安全。

## 中心静脈カテーテル ( ちゅうしんじょうみやくカテーテル )

中心静脈内に挿入 ( 留置 ) する細い管

## チューブ

管のことです。

中が空洞になった弾力性のある細長い管のことです。

胃 ( ストマック ) チューブ、点滴チューブ 気管内チューブ など

➡ カテーテル p6

## ツベルクリン反応

結核菌に感染しているかどうかの検査です。

ツベルクリンは結核菌に対する抗原

皮内に注射します。

➡ 皮内注射 p22

### 点滴静脈注射 ( てんてきじょうみやくちゅうしゃ )

輸液を体内に投与方法の一つ。「点滴」と略して呼ばれることが殆ど。

一滴ずつ落下させながら薬液などを投与する。

静脈に針を刺して、輸液瓶やパックなどに

接続されたチューブを通して投与されます。

### 点滴セット ( てんてきセット )

点滴をするときに必要な医療器具。

エアー針、ビン針、注射針、点滴筒 ( チャンバー )、

クランプ ( クレンメ )、タコ管、ゴム管、点滴チューブなどがセットされています。

最近では、ダイヤル目盛付輸液用ラインセット と呼ばれるものもあるようです。

### 点滴筒 ( てんてきとう )

点滴の滴下速度の確認やエアー混入防止の為の筒。チャンバー

### 橈骨動脈 ( とうこつどうみやく )

手の親指側を流れる動脈

脈拍を触診する時の部位 ( 通常の場合 )

手首の親指側を触ると拍動を感じます。

動脈血の採取時に、選択される部位の一つ。

### 動脈 ( どうみやく )

心臓から送り出される血液が流れる血管。

左心室から送り出される血液は、酸化ヘモグロビンが多い**動脈血**。

静脈血よりも鮮やかな赤色。全身へ流れる。

右心室から送りだされる血液は、還元ヘモグロビンが多い**静脈血**。

肺へ流れます。

肺でガス交換され酸化ヘモグロビンが多い動脈血に変わり左心房に還ってきます。

➡ 静脈 p13

### 動脈注射（どうみやくちゅうしゃ）

動脈内に注射します。

★医師が実施します。

### トンボ針（トンボしん）

翼状針のこと

翼状針の形が、トンボ に似ているところから、こう呼ばれています。

静脈の穿刺が難しい場合や、

採血量が多い場合、

点滴の時などに利用されるケースが多い。

➡ 翼状針（よくじょうしん） [p26](#)

### 内シャント（ないシャント）

ブラッドアクセスの一つです。

血液透析を実施するときに血液量を多くするために、  
体内で動脈と静脈をつなぎ合わせることで

感染の危険が外シャントより低い。

➡ シャント [p12](#)

➡ 外シャント [p6](#)

➡ ブラッドアクセス [p23](#)

## は行

### バイアル

ガラス製の瓶にゴム製の栓がしてある薬瓶。

ポリエチレン製の容器もあります。

栓がゴムで出来ているため、複数回刺すことができます。

→ コアリング p9

### 皮下（ひか）

皮膚の構造は体の表面から順に

「表皮 真皮 皮下組織」から成り立っています。皮下組織のこと。

### 皮下埋め込み式リザーバー（ひかうめこみしきリザーバー）

皮下に埋め込まれたポート

静脈や動脈に挿入した留置カテーテルの先に接続された器具。

リザーバー（ポート）に特殊な針（ヒューバー針）を刺して、

薬液を注入します。

### 皮下注射（ひかちゅうしゃ）

皮下組織内に薬液を注入すること。

### 皮内（ひない）

表皮と真皮の間

皮膚の構造は体の表面から順に

「表皮 真皮 皮下組織」から成り立っています。

## 皮内注射（ひないちゅうしゃ）

表皮と真皮の間に薬液を注入します。  
薬剤の吸収が他の注射より一番遅い。  
抗生剤のアレルギー反応や、アレルギーのテスト  
ツベルクリン反応などを調べる時に実施されます。

## 皮膚反応試験（ひふはんのうしけん）

**判定は医師が行います。**

抗生剤のアレルギー反応や花粉症などのアレルギーを  
特定する時などに実施されるテスト。  
皮内テスト、スクラッチテスト、パッチテストなどがあります。  
自覚症状や皮膚の異常反応の有無を確認します。

## ヒューバー針

ポートを皮下に埋め込んでいる場合に使用します。  
ポートをイソジンなどで消毒した後に、  
ヒューバー針を刺して輸液などを注入します。

➡ 皮下埋込式リザーバー p21

➡ ポート p23

## 瓶針（びんしん）

点滴セットのチューブの端に付いている太い針。  
この部分を輸液などの入っている容器に刺し込みます。

## プライミング

点滴セットや輸血セットなどを使用する時に、  
チューブ内やフィルター内を薬液や血液などで満たしておくこと。  
ルート内に液を流しながらエア（空気）を抜く。エア抜き。

## プラスチックカニューレ型滅菌済み穿刺針

(プラスチックカニューレがためつきんずみせんししん)

➔ 末梢血管用留置針 p24

## ブラッドアクセス

血液透析の際に、血液を出し入れする為の血管やルートのことです。

ブラッドアクセスの種類には、内シャント、外シャント、動脈表在化法  
動脈直接穿刺法、カテーテルの静脈内留置法 などがあります。

➔ 内シャント p20

➔ 外シャント p6

## プラネクタ

商品名

静脈注射用ポート

一般名は、輸血・カテーテル用アクセサリーセット

## ブロック注射

➔ 神経ブロック p15

## プンク

puncture(穿刺)

整形外科の分野でよく使われる「プンクチヨン」

ということばがありますが、これは

関節腔内に溜まった液体などを抜くという

意味も含まれています。

## ポート

リザーバーと同じ

➔ 皮下埋込式リザーバー p21

## ま行

### マクロアグリゲート

輸血の時に輸血セットが詰まる主な原因である、大凝集塊。

### 麻酔（ますい）

痛みなどの感覚をなくすことです。

主に手術や疼痛の緩和の時に実施されます。

全身麻酔と局所麻酔があります。

### 末梢血管用留置針（まっしょうけっかんようりゅうちしん）

一般名は プラスチックカニューレ型滅菌済み穿刺針

カテーテルと注射針がセットされています。

カテーテルの中に針（内針）が挿入されています。

販売名には、スーパーキャス サーフロー留置針 などがあります。

➡ 血液透析用留置針 [p9](#)



### 輸液セット ( ゆえきセット )

点滴を実施するときに使用する医療機器。

点滴セット、輸血セット

ビン針、点滴筒、クレンメ、輸液チューブ、タコ管、ゴム管、静脈針、  
エア―針、フィルター などがセットになっています。

### 輸液ポンプ ( ゆえきポンプ )

点滴などを実施するときに、自然滴下より輸液の管理がし易い。

持続点滴を実施しする場合に多く用いられています。

薬液を確実に正確な量で滴下するときにも使用されます。

➡ シリンジポンプ [p14](#)

### 輸血セット ( ゆけつセット )

輸血時に使用される輸液セット。

セットの内容は、基本は、ビン針、フィルター ( 濾過筒 )、  
点滴筒、クランプ、チューブなど

上記以外に、静脈針、定量筒、通気フィルター、流量調節器 などが  
付属しているセットもあります。

### 腰椎穿刺 ( ようついせんし )

ルンバール

脊髄を覆っているクモ膜と軟膜の間、くも膜下腔に、  
長い針を刺すこと。

目的は、骨髄液の検査、脳脊髄圧の測定、  
脊髄造影、薬液の注入、腰椎麻酔などです。

➡ くも膜下腔内注射 [p7](#)

➡ 骨髄穿刺 [p10](#)

## 腰椎麻酔（ようついますい）

くも膜下腔内に、麻酔薬を注入して  
下半身の痛みなどの感覚をなくすこと。

➡ 腰椎穿刺 [p25](#)

➡ くも膜下腔内注射 [p7](#)

## 翼状針（よくじょうしん）

翼付静脈針

トンボ針ともいいます。

静脈の穿刺が難しい場合や、

採血量が多い場合、

点滴の時などに利用されるケースが多い。

➡ トンボ針 [p19](#)

## リザーバー

静脈や動脈に挿入した留置カテーテルの先に接続された器具。

ポートと同じ

- ➡ 皮下埋込式リザーバー [p21](#)

## 留置針（リ्यूうちしん）

持続点滴が必要な方や、血管確保が困難な方などに用いられることが多い。

硬い金属製の針ではなく、プラスチック製のカテーテルを使用することで

血管の損傷や炎症などのリスクが少ない。

外筒がカテーテルで、内筒が注射針。

- ➡ プラスチックカニューレ型滅菌済み穿刺針（末梢血管用留置針） [p23](#)

### ワンポイントカットアンプル

アンプルの頸部のくびれた部分に、カットし易いように、あらかじめ傷がついているアンプルがあります。

傷がついている部分にマークが1ヶ所ついているものを、ワンポイントカットアンプルといいます。

マークが2ヶ所ついているものを、ツーポイントカットアンプルといいます。

どの方向からもカットできるように、くびれた部分全部に傷がついているアンプルを、全周カットアンプル と呼ばれるものもあります。

上記のようなあらかじめ傷がついているアンプルを  
イージーカットアンプルといいます。

最近では安全性や利便性も考えて、

イージーカットアンプルが主流になってきています。

➡ アンプルカット p4



#### 豆知識

薬事法の改正で  
平成17年の4月から  
医療器具・医療用具などの  
呼称が統一されました。

医療機器

## 索引

### あ行

IVH (アイブイエイチ) . . . . .	3
アナフィラキシー . . . . .	3
アルコール消毒 . . . . .	3
アレルギー反応 . . . . .	3
アレルギー反応テスト . . . . .	4
アンプル . . . . .	4
アンプルカッター . . . . .	4
アンプルカット . . . . .	4
インラインフィルター . . . . .	4
エアーク . . . . .	5
エクステンションチューブ . . . . .	5

### か行

外シャント . . . . .	6
カテーテル . . . . .	6
カニューレ . . . . .	6
カラーコード . . . . .	7
筋肉内注射 . . . . .	7
くも膜下腔内注射 . . . . .	7
クランプ . . . . .	7
クレンメ . . . . .	8
クローズドシステム . . . . .	8
ゲージ . . . . .	8
血液ガス分析 . . . . .	8
血液透析用留置針 . . . . .	9
血管迷走神経反射 . . . . .	9
コアリング . . . . .	9
抗生剤 . . . . .	9
硬膜外腔内注射 . . . . .	9
骨髄穿刺 . . . . .	10

## さ行

採血ホルダー	1 1
サーフロー留置針	1 1
三方活栓	1 1
自己注射	1 2
持続皮下注射	1 2
シャント	1 2
消毒用アルコール	1 2
静脈	1 3
静脈炎	1 3
静脈カテーテル	1 3
静脈血	1 3
静脈注射	1 4
静脈注射用ポート	1 4
シリンジ	1 4
シリンジ採血	1 4
シリンジポンプ	1 4
神経ブロック	1 5
心注（心腔内注射）	1 5
穿刺	1 5
造影剤	1 5

## た行

ダイアライザー	1 6
ダブルル - メンカテ - テル	1 6
チャンバー	1 6
注射	1 6
注射針	1 6
中心静脈	1 7
中心静脈カテーテル	1 7
チューブ	1 7
ツベルクリン反応	1 7
点滴静脈注射	1 8
点滴セット	1 8

点滴筒	18
橈骨動脈	18
動脈	18
動脈注射	19
トンボ針	19

な行

内シャント	20
-------	----

は行

バイアル	21
皮下	21
皮下埋込式リザーバー	21
皮下注射	21
皮内	21
皮内注射	22
皮膚反応試験	22
ヒューバー針	22
瓶針	22
プライミング	22
プラスチックカニューレ型滅菌済み穿刺針	23
ブラッドアクセス	23
プラネクタ	23
ブロック注射	23
punk	23
ポート	23

## ま行

マクロアグリゲート	2 4
麻酔	2 4
末梢血管用留置針	2 4

## や行

輸液セット	2 5
輸液ポンプ	2 5
輸血セット	2 5
腰椎穿刺	2 5
腰椎麻酔	2 6
翼状針	2 6

## ら行

リザーバー	2 7
留置針	2 7

## わ行

ワンポイントカットアンプル	2 8
---------------	-----



## 〈参考文献〉

### 書籍

最新医学大辞典（医歯薬出版株式会社）  
ポケット看護辞典（廣川書店）  
写真でわかる基礎看護技術①（株式会社インターメディカ）  
写真でわかる看護安全管理（株式会社インターメディカ）  
看護・医療事故防止  
自己学習CD-ROMプログラム（医歯薬出版株式会社）  
フィジカルアセスメント  
ナースに必要な診断の知識と技術第4版（医学書院）

### インターネット

厚生労働省HP  
日本看護協会HP  
ウィキペディア  
医薬品医療機器情報提供ホームページ

### 〈免責事項〉

当電子書籍の内容につきましては、参考文献や作成者の経験などを基に、細心の注意を払い、より正確な情報に努めておりますが、それらの安全性、完全性などは保証しておりません。

又、管理人の経験や知識などを基にまとめた部分もある為、私見も含まれております。あくまでも参考の一つとしてご利用願います。

ここに掲載されている内容において、問題や損失・トラブル等いかなる損害についても、管理人（作成者）には責任はないものとさせていただきます。ご容赦ください。全て自己責任でお願い致します。

※各医療機関や医師、薬剤師、看護師などにより、治療方針や看護方針取り扱う医療器具など異なる場合もございます。

現場での方針を最優先させることが基本になると思います。

当電子書籍はあくまでも一つの参考としてご利用願います。

### 〈著作権について〉

当電子書籍の著作権は作成者にあります。

当電子書籍に掲載されている全てのコンテンツの無断転載、複製配布などを禁止しております。宜しくお願い致します。

☆コンテンツの利用をご希望の方は、下記までご連絡下さい。

又、当電子書籍へのご意見、ご感想、ご希望などございましたらお知らせ頂けたらと思います。

※誤字・脱字などで読みにくい部分がありましたら、お手数かけて申し訳ありませんが、ご連絡下さい。

[お問い合わせフォーム](#)

### 〈管理人（作成者）のプロフィール〉

作成者名： koyomi

現在、一児の母 サイトの管理・運営 親の介護 主婦業 など  
看護師として10年間勤務（病院5年・健康相談5年）  
肩書きはありません。

## あ と が き

臨床現場で仕事をしていると、じっくりと勉強をしている時間がない方もいらっしゃるかと思います。私もそういう時がありました。

勉強する時間があったら、寝るか、食べに行くか、飲みに行くか、旅行に出かけるか、友達と話をするか、ボーっとしているか・・・など ストレスを発散させ、リフレッシュする時間に充てていました。

現場では、目の前の仕事をこなすのに精一杯！若いころは、感性に頼っていたところが多く、知識はあとからついてくる・・・という感じ。現場では知識よりも感覚（勘）の方がより大切な時もありました。

ただ、理想としては、やはり、きちんとした知識は前もって持っていた方がより安心・安全であるということは当然ですが、覚えも早くなり、技術も早く身につくような気がします。

若い時は感覚もまだ鋭く、どうにかやってこれた部分もありましたが、体力に自信が無くなってくると、徐々に感覚も鈍くなり・・・

体力がない分、知識や経験を活かしてカバーしていくしかない様で・・・

様々な情報が氾濫している今日ですが、より有用でより最新の情報を掲載出来るようにいろいろアンテナをはって、努力しているところです。当電子書籍が少しでもお役に立てれば幸いです。

最後までお読み頂きありがとうございました。